

発行元; NPO法人脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会 鹿児島県阿久根市 画鉄道画

他の最新記事はFBページでご覧ください われば https://www.facebook.com/kamechidori

当NPOの全体像や渚だよりのバックナンバなどはホームページをご覧ください
https://npokamechidori.com/



今シーズンのウミガメの産卵・孵化まとめ (保護活動)

(≒孵化日数)

	産卵 日	産卵 数	孵化 数	孵化 率	卵の 移設	脱出 開始	初脱出ま での日数
1	6/14	119	99	83%	有	8/8	55日
2	6/30	155	109	70%	有	8/19	50日
3	7/14	120	100	83%	無	9/2	50日

孵化が終わった全ての場所を鹿児島水族館の学芸員と合同調査しました。今回初めて、産卵から脱出までの巣の温度を測定できました。その結果、オスとメスの生まれる確率が50:50になる理想的な巣の温度(平均29°C)であったことがわかりました。記録的な高温の夏でしたが、砂の中はうまく温度調節ができており驚きです。2か所は海水に浸かる場所に産卵したため、卵を移設しましたが、孵化率も70%以上で移設の方法も適切であったと思われます。保護活動の詳細は裏面の特集をご覧ください。

親子による海岸の夜間巡回 (保護活動)

昨年好評だった夜間の砂浜の巡回を、今年も夏休み期間に開催しました。7日間で計13組の親子と市職員含め43人が参加しました。ウミガメには静かで真っ暗な海岸が必要なため、ウミガメ保護監視員の引率のもとに、ウミガメの産卵場所、夜間に活動するスナガニ、夜に咲く草花などを観察しながら、夜の砂浜の雰囲気を体感できたはずです。往復3Kmを歩き終えて、子供だけでなく親御さんも「とても楽しかった」とのことでした。



鳥の写真と剥製の展示会 (海岸の魅力の広報)

鹿児島県内で撮影された美しい鳥の写真と脇本海岸で見られる鳥の剥製を、脇本公民館の1階ロビーで9月24日から1週間展示しました。26日には脇本小3年生全員と校長先生など引率の先生を含めて約40名が剥製に見入ったり、かわいい鳥の写真に歓声を上げていました。

期間中28日(日)には愛宕川から若宮神社周辺で開催した探鳥会に、市内外から30名が集まり、17種類の鳥を観察しました。砂浜ではシロチドリを7羽確認できたので、来シーズンこそは産卵して雛が巣立ってほしいものです。





高齢者学級と児童クラブへ出前講座 (啓蒙活動)

1. 馬場集落の高齢者学級に下村集落からも参加があり、「脇本海岸の自然と歴史を学ぶ講座」を若宮神社で開催しました。"地域のことをもっと知りたいね"と盛り上がりました。



2. 山下と鶴川内の児童クラブの合同ウミガメ講座を開催しました。脇本海岸に行ったことがない子供が半数以上いましたが、これを機に遊びに来てほしいものです。



3. 阿久根以外で初めて、 出水市上中自治公民館 において「ウミガメ保護 活動」を紹介しました。 子供だけでなく大人も、 初めて聞く脇本海岸の ウミガメの話や甲羅の 実物に興味津々でした。



6/30産卵のウミガメ 保護活動のサイクル

今シーズンの上陸・産卵から子ガメが海に帰るまでの流れをまとめてみました。人の手を借りて様々な困難を乗り越えていかざるを得ないウミガメの繁殖の現状を理解していただければと考えます。



見込み通り、この場所に上陸するも、草 のためか穴を掘れず、4回も上り下りし て、結局浸水域に降りて産卵



すぐに海水に浸からない近くの高所に、巣 のサイズなどを再現して150個の卵を移設





孵化まであと 数日の8/11に 高波で巣の砂 が半分流出 するも、奇跡 的に卵は無 事に残る



8/18~19日にかけての夜中 に相当数が一斉に巣から脱 出し海へ向う



その後も1週間脱出が続き、孵化が 終了し、巣の堀上調査(8/28)をする



巣を掘り上げ、脱出したあとの卵の 殻と、死んだ卵を トレーに並べて孵 化率などを調べる

